第２次安曇野市総合計画後期基本計画
市民ヒアリング報告書
（速報版）

令和４年９月

安曇野市

目 次

１．移住者へのヒアリング 1
■ ヒアリング実施概要 1
■ ヒアリング内容 1
■ ヒアリング結果 3
２．子育て世帯へのヒアリング（あづみの自然保育） 5
■ ヒアリング実施概要 5
■ ヒアリング内容 5
■ ヒアリング結果 7

1．移住者へのヒアリング

■ ヒアリング実施概要

対象者	県外出身の安曇野市職員 8 名 （主に 20～30 代の若手職員）
実施日	令和 4 年 9 月 16 日（金）
主なヒアリング事項	・　移住のきっかけ ・　安曇野市の魅力 ・　移住定住の促進についてのご意見

■ ヒアリング内容

① 安曇野市への移住を決めたきっかけ・経緯等

Ａさん：　幼少期からキャンプ等で長野県に訪れる機会があった。子育てにあたり自然環境が豊かでかつ、自然保育を推奨している長野県への移住を考えた。趣味の仲間が近くに住んでいることも、安曇野市への移住を決めた理由の１つ。

Ｂさん：　旅行で長野県を訪れた際に、長野県での生活に魅力を感じた。長野県のなかで安曇野市を選んだ理由は明確には無いが、上高地やわさび農園の情景の印象が強く残っていたことが影響したのではないかと感じている。

Ｂさん：　移住にあたって、一軒家の賃貸物件を希望していたが安曇野市には一軒家の賃貸物件が少なく、賃料が比較的高い。子育て世帯にとっては、賃料が割安な一軒家の賃貸物件が充実していると良いと思う。物件選びには、民間の不動産サイトを活用した。空き家バンクは登録戸数が少なく利用しなかった。

Ａさん：　同じく一軒家を希望し、賃貸物件を民間の不動産サイトにて探した。

Ｃさん：　登山が趣味で、北アルプスが一番よく見え、景色が良い安曇野市への移住を決めた。登山好きの人で、県外から毎週のように安曇野市へ通っている方は少なくないと思う。

Ａさん：　公務員として働きたいという希望があったため、経験者枠で職員の募集がある安曇野市への転職を決めた。

Ｄさん：　妻の出身地が安曇野市近隣であったことが移住のきっかけ。安曇野市は年齢制限のない経験者枠の募集があり、魅力的だった。

Ｅさん：　都内で勤務していたが、地方への移住を希望していた。親戚がおり、山や景色がきれいな安曇野市への移住を決めた。

Ｆさん：　夫の職場が安曇野市に近く、結婚を機に安曇野市への移住を決めた。自然環境やきれいな水も安曇野市の魅力だと感じた。

Ｇさん：　自然が好きで、大学進学時に長野県へ移住した。就職については、勤務地として特別安曇野市を希望していたわけではないが、学生時代に旅行で安曇野市を訪れた際に見た北アルプスの印象が残っており、安曇野市のイメージは良かった。

Ｈさん：　前職で安曇野市を訪れる機会が複数あった。景色がきれいで印象が良いことから、安曇野市での就職を考えた。安曇野市は経験者枠の募集があったため応募した。安曇野市は、社会人経験者枠の募集が他市町村よりも多い印象がある。

② 移住にあたり不安や障壁だと感じたこと

Ｂさん：　特に不安は無かったが、周囲からは知り合いがいないことについて心配された。結果として、今では大学や職場の同期等の友人がいる。

Ｃさん：　移住してみて、安曇野市は面倒見が良い人が多い印象を受ける。

Ｂさん：　車が無いと生活できないことは、不便だと感じる。

Ａさん：　車は家族で１台では不足感があり、２台目の車を購入した。車の購入は負担が大きい。

Ｅさん：　私自身、車の免許を持っていない。都市では電車移動で充分であり、車はあまり必要ないため、免許を取得していない若者は多い。免許を取得したり車を購入したりするための費用負担が大きく、安曇野市への移住についてのハードルになっているのではないか。

市担当：　若い世代でも車を運転しない・出来ない人が増えていることを想定したまちづくり、公共交通の仕組みづくりを考えていきたい。

③ 近所付き合いや区活動等で困ったこと

Ｇさん：　消防団には入っている以外に主だった近所付き合いはないが、特に不便を感じていない。

Ｂさん：　転入時に区や地域の組合活動について、地域の方から説明を受けたが、複雑でわかりにくいと感じた。

Ｃさん：　同じような経験をした。事前に市から、区の制度や区・組合の活動について、地域ごとの特徴・活動内容等を具体的に説明してくれると、わかりやすかったと思う。

Ｆさん：　伊那市では、区の制度やそれぞれの区の活動について、移住者向けの情報が充実している。移住者の安心感につながるため、受入側として地域ごとの情報を充実させるべきだと思う。

市担当：　区の活動等に関する情報の充実について、伊那市等他自治体の事例に学び、今後に活かしていきたい。

④ 若者の転出超過について、その要因や改善点

Ｄさん：　子どもに対し、地元に残ったり、帰ってきたりするように強く伝えない親が増えているのではないか。

Ｃさん：　都市部の方が、就職先の選択肢が多いことが影響していると思う。

Ｆさん：　都市部では求人が多く、新卒世代を安曇野市へＵターンさせることは難しいと感じる。一方で、子育て世代では、小学校進学等の節目で自然豊かな安曇野市への移住を検討する方も多いのではないか。

Ｂさん：　地元の魅力を知る意味で、大学等への進学で市外・県外へ出ること自体は悪いことではないと思う。

Ａさん：　小中学生に対し、地元の仕事やその魅力を知ってもらう機会を設けることも重要なのではないか。

⑤ 移住前後での安曇野市に対するイメージのギャップ

Ｃさん：　野菜が安いかと思っていたが、想像していたより安くなかった。

Ｆさん：　店頭に並んでいる県外産の農産物の多さには驚いた。

Ｆさん：　天気の良い日が多い。

Ａさん：　朝晩が涼しく、過ごしやすい。

Ａさん：　大きい公園は多いが、小さい子どもが遊べる公園が少ない印象。
Ｃさん：　遊具が充実した公園が少ないと感じる。

⑥ 移住・定住を促進するうえで必要だと感じる取組・施策

Ａさん：　移住前に、先輩移住者との交流の場があると嬉しい。実際に移住した方の話を聞くことで不安なく移住出来ると思う。
Ｃさん：　移住者同士の交流の場があると良いと思う。
Ａさん：　安曇野市に知人・友人がいない方にとっては、移住者同士の交流は特に必要なのではないか。
市担当：　市の魅力についてのＰＲだけでなく、移住前後の不安を解消できるような支援を充実させていきたい。
Ｂさん：　高齢者になった時の安曇野市での生活を想定すると、運転できなくなった後が心配だと感じる。
Ｃさん：　安曇野市のデマンド交通「あづみん」は、車両が大きくなく、乗るのを遠慮してしまう。
Ｅさん：　コミュニティバスについては、高齢者や障がい者向けをターゲットとしている印象があり、利用することがためらわれる。ルートは市内の一部エリアだけでなく、市内全域をつなぐルートとするべきではないか。
Ｆさん：　大学進学後、安曇野市へ戻ってこない若者が多い一つの要因として、中学高校時代に安曇野市の公共交通の不便さを実感してしまっていることもあるのではないか。
Ｅさん：　運転免許証を取得していない若者は、安曇野市に戻ってくることが難しいと思う。
市担当：　あづみんは、11 月からアプリで呼ぶ機能が追加されるので、是非利用してみて欲しい。
Ｇさん：　首都圏在住者のなかで、地方での暮らしを希望する人は一定数いると思う。安曇野市の認知度を上げるためのＰＲが重要であることは前提として、移住者への支援を充実させ、そのこともアピールしていくべきだと思う。
Ｃさん：　現状、支援内容や支援していることについての発信が少ないのではないか。
Ｇさん：　自然環境が良いことはＰＲ材料になると思うが、そこでの暮らしをイメージしてもらえるよう、安曇野市での生活についての具体的な情報発信も必要だと感じる。

■ ヒアリング結果

✓ 安曇野市の強みは自然環境や美しい景観

ヒアリングでは、安曇野市の自然環境や美しい景色・景観が、安曇野市への移住を決めるきっかけの１つとなったという意見がみられた。特に、子育て世代は豊かな自然環境のもとでの子育てを望むニーズが相応に高く、豊かな自然環境は安曇野市の魅力として意識されやすいものと推察される。

移住・定住の促進を図る上では、美しい自然環境を保全するとともに、景観の美しさや豊かな自然環境を PR していくことが求められる。

✓ 観光や登山等のアウトドアスポーツによる関係人口の創出が重要

移住者から選ばれるためには、安曇野市が広く認知されていることが重要となる。このため、安曇野市との接点をもつ、関係人口を創出することが重要な要素の１つとなるが、ヒアリングでは「親類や友人・知人の存在」や、「旅行」、「登山」が安曇野市との接点を持ったきっかけとして挙げら

れた。

したがって、安曇野市の自然環境を生かした観光振興を図るとともに、登山等のアウトドアスポーツ環境を整備することによって、関係人口を更に増加させることが重要である。

✓ **中古物件の充実が必要**

ヒアリングからは、移住者による中古戸建物件の賃借ニーズが高いことがうかがえる一方で、物件の供給量が少ないことが課題としてあげられた。市内に存在する利活用可能な空き家について、所有者の意向確認等を進めることで、市場への供給量および空き家バンク登録物件数の増加を図ることが求められる。

✓ **自家用車取得等にかかる経済的負担が大きい**

地方は都市部と比較して、公共交通の利便性が低い傾向にあるが、ヒアリングでは、地方での生活に必要な自家用車の購入や運転免許の取得にかかる経済的負担が、地方への移住を検討する際の障壁になるといった意見がみられた。移住・定住の促進を図る上では、移住者に対する自家用車取得費の助成などについて検討することも必要であると考えられる。

また、高齢等を理由とする免許返納後の移動手段の確保を、移住者が安曇野市で定住するうえでの懸念事項とする意見もみられたことから、「あづみん」等、公共交通の充実も重要な取組である。

加えて、自家用車や免許を持たない若者の増加など、若者の車離れが進んでいる現状も踏まえ、若い世代も利用しやすい公共交通サービスのあり方を検討することも求められる。

✓ **区制度や地域の活動に関する情報の充実を**

都市部からの移住者にとっては、区などの地域活動について馴染みが無いことも多く、また区や組合活動の重要性・必要性についての認識が地域住民と乖離していることも少なくない。ヒアリングでは、これらに関して移住後に説明を受けた内容の分かりにくさを課題としてあげる意見が見られた。

したがって、移住希望者への情報提供の１つとして、移住前に区などの地域活動について丁寧に説明することが求められる。また、市内でも地域ごとに活動内容や活動頻度に違いがあることから、移住者が希望する居住地に応じて、よりきめ細かい説明が必要である。

✓ **市民・先輩移住者との交流の場の充実が求められる**

移住・定住の促進にあたっては、自然環境等を PR するだけではなく、安曇野市での生活をイメージできるような情報を発信することで、移住希望者が安心して安曇野市へ移住できると感じられるようにすることが重要という意見があった。また、周囲に頼れる人がいることが、移住する上での安心感につながるとの意見もみられた。

これらを踏まえると、移住希望者と先輩移住者との交流の場を設けるなど、移住希望者が安曇野市民と交流し、また関係を構築していくなかで、移住希望者が移住前に抱えている不安を解消するための取組が必要であると考えられる。

✓ **移住者に対するサポート体制についての PR が必要**

移住・定住を促進する上では、移住者に対する移住前後のサポートおよびサポート体制を充実させ、これを安曇野市の魅力として発信することが重要との意見があげられた。移住者支援の充実度を、安曇野市の魅力とするとともに、発信していくことが必要である。

2．子育て世帯へのヒアリング（あづみの自然保育）

■ ヒアリング実施概要

対象者	明科北認定こども園（※）に通う幼児の保護者４名
実施日	令和４年９月16日（金）
主なヒアリング事項	・　あづみの自然保育の魅力 ・　あづみの自然保育のブランド化について

※ 明科北認定こども園は、長野県が推進する自然環境や地域資源を保育に取り入れる「信州やまほいく」の「普及型」（他のプログラムと合わせて、自然保育にも積極的に取り組む活動）と、「特化型」（質、量ともに自然保育に重点を置いて取り組む活動）の２コースの保育サービスを提供している。

※ 市は、明科北認定こども園の保育業務を令和４年度よりNPO法人「響育の山里 くじら雲」に委託。NPO法人「響育の山里 くじら雲」が運営する「響育の山里 くじら雲」の園児は、令和３年度より引継ぎ保育として明科北認定こども園に合流。

■ ヒアリング内容

① 明科北認定こども園（くじら雲）に入園したきっかけ

Ａさん：　雑誌をみて野外保育に興味を持ったことから入園した。

Ｂさん：　自宅に近い地域の施設ということで入園した。

Ｃさん：　自然保育に力を入れており、また、自宅から近いこともあり入園した。

Ｄさん：　自然保育に関する書籍を読み、自然保育に興味・関心があったことから入園した。

② 自然保育を通じて良かったと感じる点

Ａさん：　日々の生活が自然のなかにあり、生きる力・生活に必要な衣食住に関する力が備わっていると思う。食べ物は、好き嫌いなく何でも食べる。

Ｄさん：　自然のなかで少人数での保育のため、一人ひとりの主体性を重視して育てられる。新しいことに対して、自分で考えて行動できる。

Ｂさん：　自然の中で様々なことを教えていただき、楽しく過ごせていると思う。学年関係なく縦割りの少人数グループでの保育のメリットが大きいと感じている。

Ｄさん：　縦割り保育では、年長さんが小さい子たちが出来ないことをサポートし、また、年少さんが年長さんの行動をみて学ぶことを通して、お互いが成長できる。

Ｃさん：　昔に比べて近所のつながりが希薄なので、縦割りを通して学年関係なく交流出来ることは貴重な体験だと思う。

Ｃさん：　少人数での保育のため、一人ひとりをしっかり見てくれていると思う。自然のなかでの保育を通して、自然へ興味を持っていることや心の成長を感じる。

Ｄさん：　自然のなかで、木の種類や葉の色のバリエーションを知ること等を通して、ものごとを捉える力や見る力、観察力等が養われていると思う。

市担当　：今お話しいただいたような自然保育のメリットは、まだ広く知られていないと感じる。ＰＲを強化していきたい。

③ 自然保育についての要望

Ｄさん：　園庭について、自然のなかで色々な生き物がいる状態を作り出して欲しい。

Ａさん：　自然を感じられる園庭にして欲しい。収穫体験や畑作りは、体験ではなく生活の一部として実施できるとより魅力的になると思う。自然体験交流センター「せせらぎ」など、市の公共施設を有効活用しても良いと思う。

Ｄさん　：園バスを用意し活用することで、園児が活動できるフィールドを広げて欲しい。

Ｃさん　：園バスは必要だと思う。市として導入すれば、明科北だけでなく、他の園でも活用できると思う。

Ｄさん：　運営法人だけでなく、市からも働きかけることにより、地域住民の理解を得ることで、子どもたちの活動のフィールドを確保し、広げて欲しい。

Ｂさん：　「あづみの自然保育」のブランド化について、ブランド化する内容・中身が曖昧ではないか。「あづみの自然保育」とは、何を目指すものなのか、より明確にするべきではないか。

④ 「あづみの自然保育」のブランド化について

Ａさん：　「あづみの自然保育」という言葉を始めて聞いた。

市担当：　長野県では「信州型自然保育（やまほいく）」しており、安曇野市でも「あづみの自然保育」のブランド化を目指して取組を進めている。あづみの自然保育のブランド化により、子育て世帯の移住・定住も強化していきたい。

Ｄさん：　ブランド化に力を入れることは良いが、中身を充実させることが重要ではないか。また、子育て世帯にとって、移住は大きな決断であるため、自然保育のメリットについて科学的な根拠があると良いのではないか。

市担当：　自然保育のメリットについての科学的な根拠も重要だが、保護者の皆さまが自然保育の効果を実感していただいているということ自体が一種の根拠にもなると考えている。うまくＰＲに生かしていきたい。

Ｂさん：　移住・定住のために、市外の方にＰＲするのも大事だが、地域の方・地域の保護者への説明・ＰＲが不足していると感じる。

Ａさん：　ブランド化する内容を明確にした方が良い。保育者を含め、自然保育の内容が十分に周知されていないと思う。

市担当：　保育者から保護者に対し、自然保育の内容やメリットについて説明するなど、コミュニケーションを強化する必要があると感じる。

Ｃさん：　地域住民との交流等を通して、地域の方に自然保育やその魅力について知ってもらう必要があると思う。

Ｄさん：　まずは地域内へのＰＲが重要なのではないか。

Ｂさん：　地域の方に理解され、愛されるようにならないとブランド化は難しいと思う。

Ｃさん：　「あづみの自然保育」と「信州型自然保育」との違いや、信州型自然保育における「特化型」、「普及型」の違いなど、分かりやすく発信するべきだと思う。現状では、元々自然保育に興味のある層にしかＰＲ出来てないと思う。

市担当：　地域の方にも知ってもらえるよう、わかりやすく情報発信していきたいと思う。

■ ヒアリング結果

✓ 保護者の多くが自然保育の効果を実感

ヒアリングからは、自然保育の効果として主体性、観察力など、生きる力が育まれていると実感しているとの意見が多くみられた。

※ヒアリング対象者が明科北認定こども園の保護者のみであることに留意

✓ 「あづみの自然保育」のブランド化にあたっては内容の充実および明確化が必要

「あづみの自然保育」のブランド化にあたり、情報発信の強化とともに、「あづみの自然保育」の内容の充実や「あづみの自然保育」が目指すものについての明確化が必要との意見がみられた。

✓ 「あづみの自然保育」について市民に知られ、理解されることが重要

移住を促進するための市外・県外への PR も重要だが、まずは「あづみの自然保育」が地域に広く知られ、共感を得ることで地域の保護者に選ばれるように、市内へのＰＲを強化すべきとの意見が聞かれた。

第２次安曇野市総合計画後期基本計画
市民ヒアリング報告書（速報版）

令和４年９月
安曇野市